

○県立川の博物館

秋期企画展「タカ・ハヤブサ・フクロウ～荒川流域の猛禽類～」

見どころ（展示構成）

川の博物館の周辺にも生息するオオタカをはじめ、タカ、ワシ、フクロウ、ハヤブサなどの猛禽類のはく製標本などを展示し、荒川流域をはじめ県内で見られる猛禽類の生態や人との関わりを紹介します。

(1) 荒川流域の猛禽類



クマタカ

荒川流域では、秩父地方をはじめとする山地でみられるクマタカを頂点とし、丘陵地などで見られるオオタカ、汽水域のミサゴなどさまざまな猛禽類がみられます。これらをはく製標本（約30点）や写真パネルなどで紹介します。また、猛禽類の獲物となるノウサギやハトなどのはく製標本（約10点）も展示し、猛禽類の生態も紹介します。

(2) 埼玉平野の鷹狩り

鷹狩りに使われたオオタカのはく製標本、鷹狩りにまつわる絵巻物、鷹絵額（レプリカ）、鷹匠に使われる道具などを展示し、江戸期に県内の平野部で行われていた鷹狩りについて紹介します。



鳥類図鑑（絵巻物）/当館所蔵



鷹匠の道具/所蔵・写真提供：朝霞市博物館

(3) 人々と猛禽類

ワシやタカは生態系の頂点に立つ鳥類として、その雄大な姿で人々を昔から魅了してきました。

またハヤブサは最速の鳥類として、フクロウは幸せを呼ぶ鳥類として現代でも人々に親しまれています。

古墳時代の鷹匠の埴輪（レプリカ）や現在の猛禽類グッズやクラフトなどの資料とともに、人と猛禽類の関わりについて紹介します。



鳥を腕に乗せる人物
(破片・複製)
所蔵：かみつけの里博物館

【問い合わせ】 県立川の博物館
電 話：048-581-7333
F A X：048-581-7332
E-mail：web-master@river-museum.jp
ホームページ：<http://www.river-museum.jp/>

※ 諸事情により開館時間、展示構成やイベントの内容などが予告なく変更、または中止になることがあります。